

1 中間評価について

本市では令和元年6月に瀬戸市地域公共交通網形成計画を策定し、市民や交通事業者、行政等の関係者が連携して地域公共交通を確保・維持・改善していくものとしている。計画の策定期間が令和8年度までの8年間となることから、中間年度となる令和5年度の結果を以て中間評価を行い、設定した目標値に対しての達成状況のみならず、各事業の進捗状況等を踏まえて計画の進捗状況を評価し、今後の施策を検討することとする。

2 瀬戸市地域公共交通網形成計画の達成状況の評価指標と現状値について

瀬戸市地域公共交通網形成計画では、計画の達成状況を把握するため、5つの評価指標を設定しており、これらの現状値については以下のとおりとなる。

【各指標の現状値と目標値】

評価指標	計画策定時	直近の現状値	目標値 (R5)	目標値 (R8)	達成状況
①公共交通の満足度	48.6%	38.4%※1	55.0%	60.0%	未達成
②鉄道の利用者数	7,921,576人	7,385,421人	8,076,000人	8,141,000人	未達成
③公共交通300m圏人口カバー率	87%	87%※2	90%	90%	未達成
④市内基幹バスの 収支率・利用者数	53.5%	39.6%	54%	54%	未達成
	708,524人	747,348人	708,500人	708,500人	達成
⑤コミュニティバスの 収支率・利用者数	14.7%	10.8%	15%	15%	未達成
	93,353人	87,478人	93,500人	93,500人	未達成

※1公共交通の満足度の直近の現状値は第6次瀬戸市総合計画市民アンケート調査を使用しており、アンケート内容が一部異なるため参考値

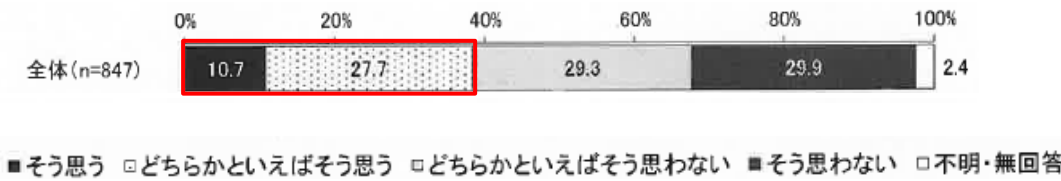
※2GISシステムの変更ににより算出方法に変更あり

→それぞれの評価指標の現状値について以下のとおりまとめることとする。

3 各指標における現状値の考察

(1) 公共交通の満足度（目標値:55.0% 現状値(R4):38.4%）

公共交通の満足度については、平成28年度の瀬戸市公共交通に関する市民アンケートの実施結果に基づいて目標値を定めており、直近の現状値が下がっているように見受けられるが、こちらは第6次瀬戸市総合計画市民アンケート調査を使用しており、アンケート内容が一部異なるため参考値となる。今後も地域により合った運行を行い、満足度を高め、令和8年度策定予定の公共交通計画に向けて令和7年度にアンケートを行いたい。



【参考】第6次瀬戸市総合計画市民アンケート（R4）

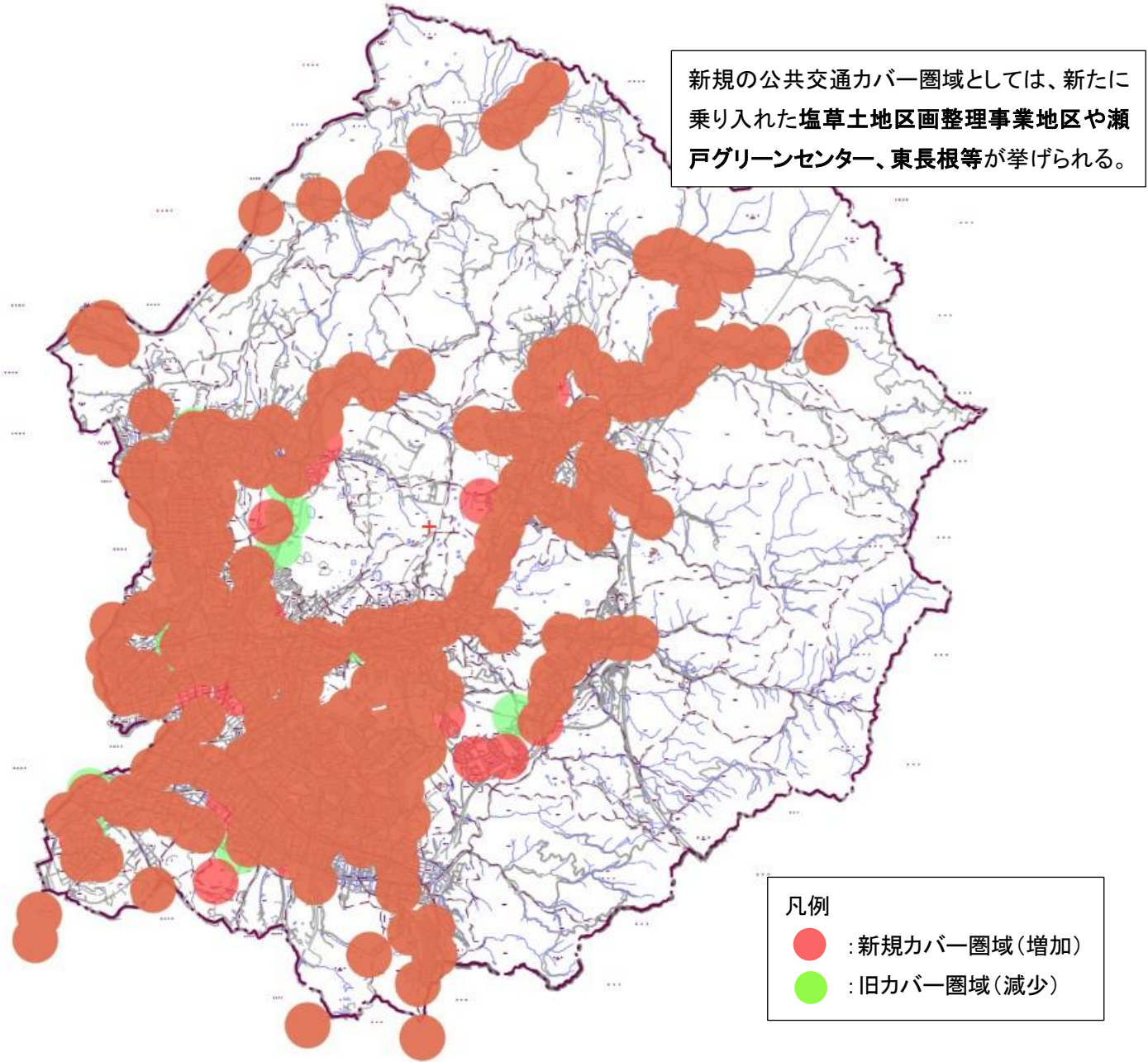
(2) 鉄道の利用者数(目標値:8,076,000人 現状値(R5):7,385,421人)

新型コロナウイルス感染拡大後、テレワークの導入など生活様式に変化があった影響により利用者は目標値を大きく下回っているが、名鉄瀬戸線及び愛知環状鉄道ともに回復傾向であり、令和元年度比で95%に近い数値となっている。目標値には届かない値となっているが、バスの利便性の向上の検討を行うことで相互の利用促進を図り、利用者数を増加させたい。

路線	R1	R2	R3	R4	R5
名鉄瀬戸線	4,962,339	3,935,751	4,114,830	4,430,053	4,615,007
愛知環状鉄道	2,910,417	2,368,297	2,478,896	2,627,611	2,770,414
総合計	7,872,756	6,304,048	6,593,726	7,057,664	7,385,421

(3) 公共交通 300m 圏人口カバー率(目標値:90% 現状値(R5):87%)

GISシステムの変更ににより人口の算出方法に変更があったため、人口カバー率が数値上は増加していないが、バス停の新規設置や運行経路の変更により、公共交通300m圏域としては以下のとおり変化している。今後はデマンド運行が本格運行となれば人口カバー率が増加すると考えられる。



(4) 市内基幹バスの収支率・利用者数(目標値:54%・708,500 人 現状値(R5):39.6%・747,348 人)

市内基幹バスについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも赤津線が令和2年度に開校したにじの丘学園へ乗り入れたこともあり利用者数が大きく増加し、利用者数については目標を達成している。しかし、収支率については、令和5年10月に名鉄バス(株)にて運賃改定を行ったものの、人件費や燃料費の高騰等に伴い、運行経費が大きく増加し、目標値を下回っている。これらの詳細については、以下のとおりとなる。

年度	利用者数	運行経費	運送収入等	市負担金	収支率
平成29年度	708,524 人	18,532 万円	9,908 万円	8,623 万円	53.5%
令和5年度	747,348 人	26,170 万円	10,369 万円	15,802 万円	39.6%

【参考】市内基幹バスの収支率・利用者数 (H29・R5)

路線	使用台数	利用者数	1便あたり利用者数	運行経費	1人あたり運行経費	運送収入等	国庫補助金	市負担金	1人あたり市負担金	収支率
①瀬戸北線	4台	257,803人 (264,246人)	11.22人 (11.48人)	10,127万円 (10,550万円)	393円 (399円)	5,554万円 (5,614万円)	53万円 (47万円)	4,519万円 (4,889万円)	175円 (185円)	55.4% (53.7%)
水野循環線	2台	91,144人 (84,729人)	12.08人 (11.23人)	5,419万円 (5,643万円)	328円 (360円)	2,795万円 (2,743万円)	—	2,623万円 (2,900万円)	159円 (185円)	51.6% (48.5%)
みずの坂線		73,911人 (72,099人)	6.90人 (6.74人)							
②2路線計		165,055人 (156,828人)	9.49人 (8.99人)							
③赤津線	1台	58,890人 (59,157人)	4.21人 (4.23人)	2,987万円 (3,109万円)	507円 (526円)	1,253万円 (1,213万円)	253万円 (360万円)	1,481万円 (1,536万円)	252円 (260円)	50.4% (50.6%)
合計	7台	481,748人 (480,231人)	8.73人 (8.69人)	18,532万円 (19,302万円)	385円 (402円)	9,602万円 (9,570万円)	306万円 (407万円)	8,623万円 (9,325万円)	179円 (194円)	53.5% (51.7%)

【参考】市内基幹バスの収支率・利用者数の詳細(市補助路線のみ)(H29)

路線	使用台数	利用者数	1便あたり利用者数	運行経費	1人あたり運行経費	運送収入等	国庫補助金	市負担金	1人あたり市負担金	収支率
①しなの線 (旧瀬戸北線)	4台	242,997人 (230,012人)	10.79人 (10.23人)	11,092万円 (10,523万円)	456円 (457円)	5,301万円 (4,690万円)	33万円 (55万円)	5,758万円 (5,777万円)	237円 (251円)	48.1% (45.1%)
水野循環線	2台	69,480人 (65,580人)	10.17人 (9.63人)	6,020万円 (5,715万円)	436円 (436円)	2,514万円 (2,187万円)	—	3,507万円 (3,528万円)	254円 (269円)	41.8% (38.3%)
みずの坂線		68,453人 (65,611人)	6.85人 (6.58人)							
②2路線計		137,933人 (131,191人)	8.20人 (7.82人)							
③赤津線	4台	191,834人 (197,490人)	9.69人 (9.92人)	9,058万円 (8,658万円)	472円 (438円)	2,286万円 (2,262万円)	235万円 (371万円)	6,537万円 (6,025万円)	341円 (305円)	27.8% (30.4%)
※にじの丘学園臨時便等含む		-5,656人	-0.23人	400万円	34円	24万円	-136万円	512万円	36円	-2.6%
合計	10台	572,764人 (558,693人)	9.68人 (9.44人)	26,170万円 (24,896万円)	457円 (446円)	10,101万円 (9,139万円)	268万円 (426万円)	15,802万円 (15,330万円)	276円 (274円)	39.6% (38.4%)

【参考】市内基幹バスの収支率・利用者数の詳細(市補助路線のみ)(R5)

【まとめ】

- ・しなの線(旧瀬戸北線)・水野循環線・みずの坂線においては、新型コロナウイルス感染症の拡大後、回復傾向ではあるものの利用者数が以前の水準までは戻っていない。
 - ・赤津線の利用者数は増加したものの、運行経費は車両台数の増加に伴い上がっている。
- 今後はサービスの確保・維持を行いながらにじの丘学園一斉下校便等の整理を行い、運行経費の適正化に努める。

(5) コミュニティバスの収支率・利用者数(目標値:15%・93,500 人 現状値(R5):10.8%・87,478 人)

コミュニティバスについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、特に郊外部の路線において利用者数及び収支率の回復が遅れていたため、目標を達成できておらず、令和6年度より品野3線及び本地線にてデマンド運行の社会実験を行っている。また、上之山線において利用実態を踏まえたダイヤ改正により増便を行った結果、令和6年度の見込みとしては、令和5年度と比較して向上し、目標値に近づいている。各指標の詳細については、以下のとおりとなる。

年度	利用者数	運行経費	運送収入等	市負担金	収支率
平成29年度	93,353 人	5,873 万円	862 万円	5,011 万円	14.7%
平成30年度	96,336 人	6,272 万円	890 万円	5,382 万円	14.2%
令和5年度	87,478 人	7,279 万円	786 万円	6,493 万円	10.8%
令和6年度(見込み)	92,153 人	7,283 万円	917 万円	6,366 万円	12.6%

【参考】コミュニティバスの収支率・利用者数 (H29・R5・R6(見込み))

年度	下半田川線・曽野線	品野3線	本地線	上之山線	こうはん線	合計
平成29年度	945 万円	1,240 万円	624 万円	1,110 万円	1,092 万円	5,011 万円
平成30年度	1,237 万円	1,269 万円	637 万円	1,138 万円	1,101 万円	5,382 万円
令和5年度	1,364 万円	1,497 万円	877 万円	1,394 万円	1,323 万円	6,493 万円
令和6年度(見込み)	1,355 万円	1,470 万円	860 万円	1,401 万円	1,279 万円	6,366 万円

※平成29年度下半田川線は、デマンド型タクシー社会実験に伴い、運休しています。

【参考】コミュニティバス各路線の市負担金の変化 (H29・H30・R5・R6(見込み))

年度	下半田川線	曽野線	品野3線	本地線	上之山線	こうはん線	合計
平成29年度	1,910 人	8,619 人	13,593 人	7,034 人	30,412 人	31,785 人	93,353 人
平成30年度	3,702 人	9,676 人	12,526 人	7,116 人	30,769 人	32,547 人	96,336 人
令和5年度	3,696 人	9,825 人	10,016 人	6,398 人	26,654 人	30,889 人	87,478 人
令和6年度(見込み)	3,588 人	9,395 人	8,323 人	6,822 人	30,084 人	33,940 人	92,153 人

※平成29年度下半田川線は、デマンド型タクシー社会実験に伴い、運休しています。

【参考】コミュニティバス各路線の利用者数の変化 (H29・H30・R5・R6(見込み))

【まとめ】

- ・曽野線・こうはん線については、新型コロナウイルス感染症拡大前と遜色ない利用者数まで回復・増加している。
 - ・下半田川線・品野3線・本地線は、利用者数の回復が遅れている。
- 今後は利用実態に合った効果的な運行方法を引き続き検討し、目標値の達成を目指すこととする。

4 各事業の進捗状況

各事業の進捗状況は以下の通りとなり、今後もより良い交通の実現に向けて未達成の項目については継続検討することとする。

基本方針	目標	事業	実施主体	2018 年度	短期					中・長期	達成度
					2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度以降	
1 都市構造を支える公共交通の確保	① 快適で円滑な乗継が可能となる乗り換え拠点の形成	㊸陶生病院バスロータリーのハブ化推進	交、団、行		供用開始	ハブ化実施					達成
		㊹パーク＆ライド駐車場・サイクル＆ライド駐輪場等の施設整備	交、行						県調査事業	まちづくりに併せて検討	未達成
		㊺バリアフリー化の推進	交、行		瀬戸市役所前駅多目的トイレ整備			瀬戸市役所前駅駅前広視覚障害者誘導用ブロック整備		まちづくりに併せて検討	一部達成
		㊻待合環境の改善	民、交、行		陶生病院バスロータリー整備			交通結節点におけるベンチ設置			達成
	② 拠点間の交通ネットワークの確保・維持	㊼広域基幹バスの運行維持・見直し	交、行		本地ヶ原線の東長根バス停新設						達成
		㊽市内基幹バスの運行維持・見直し	民、交、行		・陶生病院バスロータリーへの乗り入れ ・小中一貫校における赤津線の見直し ・市民公園前バス停の移設						達成
		㊾まちづくりと連携した新たな交通ネットワークの形成	交、行				塩草土地区画整理事業地区内への乗り入れ				一部達成
2 生活を支える公共交通の確保	③ 生活交通の確保・維持	㊿コミュニティバスの運行維持・見直し	民、交、行		陶生病院バスロータリーへの乗り入れ		6路線で運行内容の見直し		デマンド運行社会実験・上之山線の増便		一部達成
		①菱野団地住民バスの運行維持・見直し	民、交、行	運行開始						運行内容の見直し	一部達成
		②大学スクールバスとの連携	団、行								達成
		㊿新たなモビリティ・移動支援システムの導入	民、企、交、団、行						AIオンデマンド交通社会実験の実施		一部達成
3 持続可能な公共交通の確保	④ 市民・交通事業者・行政の協働による利用促進	①地域主体の公共交通検討体制の構築	民、交、行					上之山線・本地線運行協議会の設立			達成
		㊿バスの乗り方教室の開催	民、交、行					にじの丘学園・地域行事においても追加で実施			達成
		㊿バス広報の作成、配布	民、行								達成
	⑤ 公共交通利用意識の醸成	㊿市民向けエコモビの日（毎月第1水曜）の実施	民、企、交、団、行				市内企業へのエコモビ実践キャンペーンへの参加呼びかけ等の実施				一部達成
		㊿まちづくり、観光情報の発信	交、行								達成
	⑥ 利用しやすい交通環境の構築	㊿料金体系の見直し	民、交、行				運賃の見直し				一部達成
		㊿交通系ICカードの導入	交、行		コミュニティバス 愛知環状鉄道		PayPay社会実験				一部達成
		㊿バスロケーションシステムの導入	交、行								未達成
		㊿わかりやすい公共交通情報の提供（公共交通マップの作成等）	企、交、行				路線情報のGTFS化				達成
	⑦ 運行内容見直し基準の作成	㊿運行内容見直し基準の作成	民、交、行								未達成

凡例

→ 継続実施

→ 継続検討
